

### Ⅲ類（林業）専門試験

#### 【例題 1】

伝統的な有名林業地に関する次の記述 A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 吉野林業（奈良県）は、高密度で植栽し、年輪が詰まった高級スギ材を生産しており、酒樽用にも利用されている。
- B. <sup>おわせ</sup>尾鷲林業（三重県）は、植え付け本数が多く、無節で高品質なヒノキの銘柄材を生産している。
- C. 能登のアテ林業（石川県）は、ヒノキ材を生産しており、伝統産業である輪島の漆器の木地にも利用されている。
- D. <sup>おび</sup>飢肥林業（宮崎県）は、かつては造船用の<sup>べんこうざい</sup>弁甲材を生産していた。油分が多く、腐りにくいスギを実生で造林し、植栽本数が少なく、早く成長させていた。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. A, D
- 4. B, C
- 5. C, D

（正答：1）

### Ⅲ類（林業）専門試験

#### 【例題 2】

針葉樹材の組織に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 針葉樹材には、アカマツなどの一部の樹種で放射組織が認められ、その全てが柔細胞からなる。
2. 樹体を支える機能は仮道管が担い、水分の通り道は一般に道管が担う。
3. 針葉樹材の放射組織は、接線方向に細胞が多列に並ぶ広放射組織が一般的である。
4. カラマツなどには樹脂道が認められるが、樹脂道は肉眼で確認できる大型の細胞である。
5. 針葉樹材を構成する細胞のうち、一般に 90%以上を仮道管が占めている。

(正答：5)